



（左から）西牧大使、セイゴ＝モーゼス代表

令和4年8月8日、西牧大使はセイゴ＝モーゼス世界保健機関（WHO）当地代表を公邸に招き、ナミビアにおける同機関による新型コロナ対策や、最近の欧州におけるサル痘の流行等につき意見交換を行いました。

意見交換において、セイゴ＝モーゼス代表から、高中所得国のナミビアにおいては国連機関の予算が限られる中、日本は当地 WHO への最大の支援国の一つであるとして感謝の意が表されました。